

株式会社メイワ

2019年度環境経営レポート
(対象期間：2019年4月～2020年3月)



作成日：2020年6月3日

□ごあいさつ

当社は「アイデアとテクノロジーの融合」を目指し、冷熱事業、自動機事業の2つの柱で、品質管理を重視し、開発を続けてきました。徹底したニーズ志向で、時代の要求に応える製品づくりに努めています。

社訓である「個性を尊重し、特徴ある企業に高めよう」「豊かな人間関係、生活の向上を目指し社会に貢献しよう」を達成するため、常に環境の保全を意識し、環境に配慮した製品づくりを行い、豊かな循環型社会の構築に貢献します。

株式会社メイワ

代表取締役 高橋 正和

株式会社メイワ 環境経営方針

<基本理念>

わが株式会社メイワは、地球環境の保護・保全・改善が人類共通の最重要課題であることを深く認識します。

当社が行う事業活動(冷凍空調関連機器、産業用自動包装機械等の開発・設計・製造・販売)において、全社一丸となって地球温暖化の防止、資源循環の促進ならびに環境への汚染防止に努める活動を実施します。

<環境保全への行動指針>

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを順守します。
2. 次の事項について環境目標・活動計画を定め、継続的な改善に努めます。
 - ① 当社の全事業活動において、環境影響を考慮し、環境負荷の低減に努めます。
 - ② この環境改善活動は、継続的に実施し、廃棄物の削減、汚染予防、及び省資源・省エネルギーに努めます。
 - ③ 環境にやさしい省エネルギー製品の開発、製造に努めます。
 - ④ 環境改善への取組は、全従業員へ周知させるとともに、公表し、誰もが当社の取り組みを閲覧できるようにします。
3. 環境への取り組みを環境活動レポートとしてとりまとめ公表します。
4. この環境方針は、全従業員に周知・徹底します。

制定日：2007年10月1日

改定日：2019年 4月1日

代表取締役社長
高橋 正和

□組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
株式会社メイワ
代表取締役社長 高橋 正和
- (2) 所在地
本社・本社工場 和歌山県紀の川市長田中345-1
和歌山工場 和歌山県和歌山市島86-1
東京営業所 東京都港区芝1-11-16 ニチリンビル3階
北勢田倉庫 和歌山県紀の川市北勢田765-1
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者 総務部 部長 岡 徳治 TEL: 0736-73-7300
担当者 総務部 総務リーダー 岡井 延彦 TEL: 0736-73-7300
- (4) 事業内容
機械器具製造業
主要製品: 圧力容器、熱交換器、冷凍機器、自動包装機械 他
- (5) 事業の規模
製品出荷額 47億02百万円 (2019年度実績)

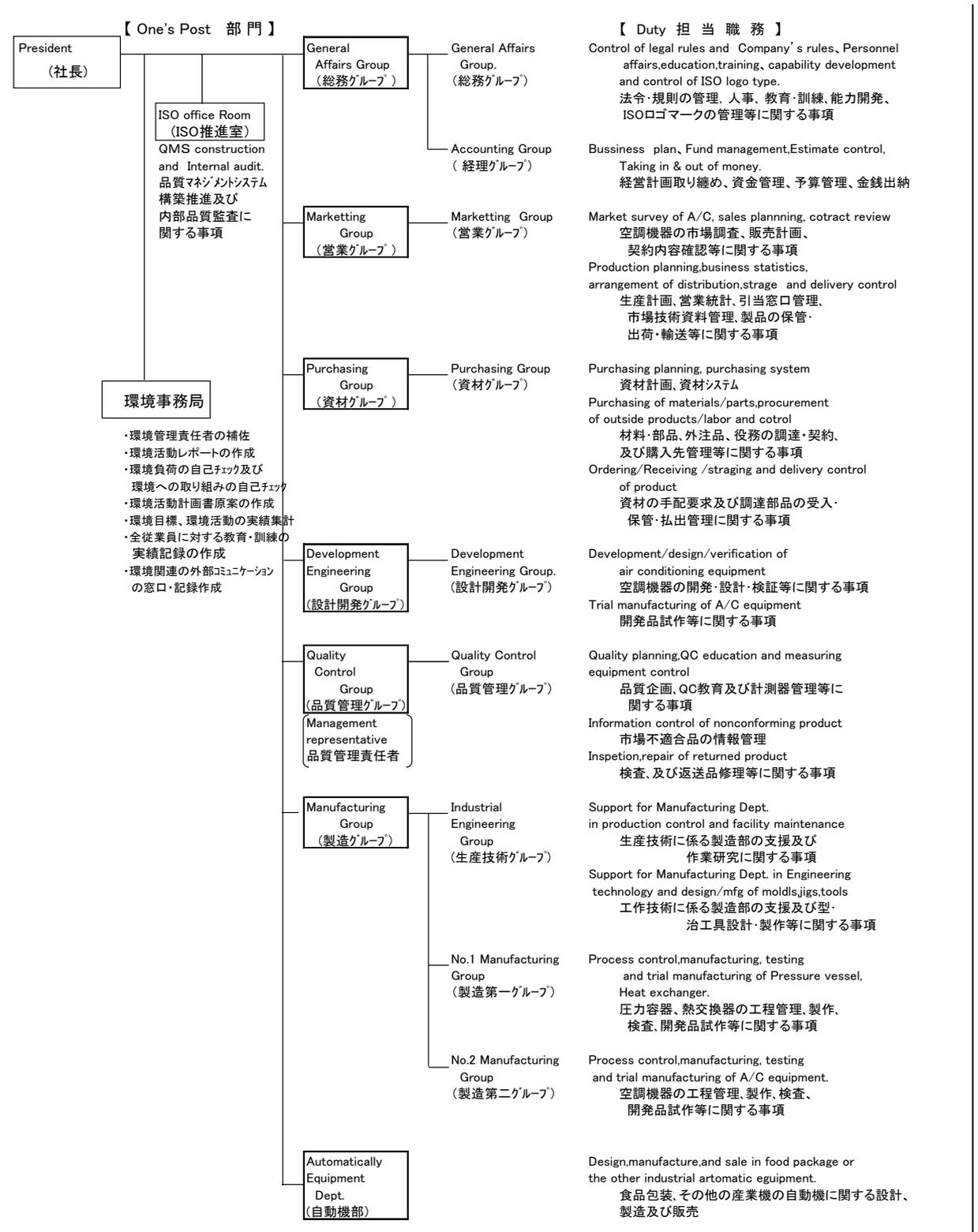
	本社	和歌山工場	東京営業所	北勢田倉庫
従業員	128名	16名	4名	
延べ床面積 (㎡)	9987.2	1257	51.57	1416.1

- (6) 事業年度 2019年4月～2020年3月

□認証・登録の対象組織・活動

- 登録組織名: 株式会社メイワ
本社・本社工場
和歌山工場
東京営業所
北勢田倉庫
- 対象外: なし
- 活動: 冷熱・空調機器及び自動包装機械等の設計・製造・販売

□実施体制



□主な環境負荷の実績

項目	単位	2016年	2017年	2018年	2019年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	604,568	912,324	909,047	919,124
廃棄物排出量	kg	177,777	168,492	136,157	135,827
一般廃棄物量排出量	kg	37,550	37,486	27,275	29,997
産業廃棄物排出量	kg	140,227	131,006	108,882	105,830
水使用量	m ³	13,881	13,296	14,203	14,593

上記二酸化炭素総排出量には灯油を含む。

※電力の二酸化炭素排出量換算値を2017年度より見直した。

0.311 kg-CO₂/kWh → 0.493 kg-CO₂/kWh

(関西電力の2016年度調整後排出係数による)

□環境目標及びその実績

項目	年度	基準値	2019年		2020年 (2017年を基準とする)	2021年 (2017年を基準とする)	2022年 (2017年を基準とする)
		(基準年度)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)	(目標)
電力の二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂	722,653	711,813 (注1)	742,071	708,200	704,587	700,973
	基準年比	(2017年)	98.5%	102.7%	98.0%	97.5%	97.0%
LPGの二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂	149,158	146,921	142,778	146,175	145,429	144,683
	基準年比	(2017年)	98.5%	95.7%	98.0%	97.5%	97.0%
自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂	33,273	32,774	30,718	32,608	32,441	32,275
	基準年比	(2017年)	98.5%	92.3%	98.0%	97.5%	97.0%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	905,084		915,567			
一般廃棄物の削減	kg	37,486	36,924	29,997	36,736	36,549	36,361
	基準年比	(2017年)	98.5%	80.0%	98.0%	97.5%	97.0%
産業廃棄物(混合)	kg	29,760	29,314	29,240	29,165	29,016	28,867
	基準年比	(2017年)	98.5%	98.3%	98.0%	97.5%	97.0%
廃油・汚泥の削減	kg	4,770	4,698	5,500	4,675	4,651	4,627
	基準年比	(2017年)	98.5%	115.3%	98.0%	97.5%	97.0%
水使用量の削減	m ³	13,296	13,097	14,593	13,030	12,964	12,897
	基準年比	(2017年)	98.5%	109.8%	98.0%	97.5%	97.0%
製品への環境配慮 (環境配慮製品の販売台数)	販売台数 増加率	100%					
		(2017年)	117.6%	200.0%	176.5%	235.3%	294.1%

※化学物質については、顧客指定の為、目標設定していませんが、消費量削減に努めます。

□環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

◎よくできた ○ほぼできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	次年度	評価（結果と次年度の取組内容）
電力による二酸化炭素排出量の削減			
数値目標	×		
・空調温度の適正化（冷房26℃ 暖房23℃）	○	継続	作業環境改善の為、昨年に引き続き工場内の空調設備を更新。省エネ機器導入により、単体の消費電力は下がったが、空調機器数は増えた為、総電気使用量は増加。来年度以降も空調機器は更新していくが、作業効率向上で電気使用量は抑制する。
・不要時の消灯	◎	継続	
・空気圧縮機のエア漏れ点検・修理	○	継続	
・省エネ設備の導入	○	継続	
LPGによる二酸化炭素排出量の削減			
数値目標	○		
・省エネ表示を行う。	○	継続	作業効率化が進み、LPG使用量は削減できている。今後も継続していく。
・設備メンテナンス	○	継続	
自動車燃料による二酸化炭素排出量の削減			
数値目標	○		
・エコドライブ	○	継続	現場出張の効率化が進み、自動車使用量の削減ができてきている。
・積載オーバーをしない	○	継続	
一般廃棄物の削減			
数値目標	○		
・分別の徹底	◎	継続	引き続き、緩衝材段ボール等のリサイクルに努める。
・裏紙使用の徹底	○	継続	
産業廃棄物（混合）の削減			
数値目標	○		
・分別の徹底	◎	継続	部門別の管理が徹底できるようになってきた。引き続き削減に繋げる。
・部門毎の廃棄重量把握	◎	継続	
産業廃棄物（廃油・汚泥）の削減			
数値目標	×		
・発生量の抑制	○	継続	充填テストのサンプル品は基本的に返却する事。
・再生引取り	○	継続	
・テスト用食品サンプルの返納依頼	△	継続	
水使用量の削減			
数値目標	×		
・オーバーフロー水の供給自動化	○	継続	新規開発品のテストで水使用量が増加。次年度も開発は継続するが、適切な水使用に努めること。
製品への環境配慮			
数値目標	◎		
・環境配慮製品の販売促進	○	継続	省エネ・環境改善性能のより一層のアピールを。

□環境関連法規等の遵守状況及び違反訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（金属くず、廃プラ、廃油等）
消防法（危険物）	塗料・シンナーの保管、消防設備の点検
浄化槽法	合併浄化槽
フロン排出抑制法	業務用空調機、エアドライヤ、チラー
P R T R法	キシレン、エチルベンゼン、1,2,4-トリメチルベンゼン、 1,3,5-トリメチルベンゼン、トルエン、フタル酸ジ-n-ブチル
悪臭防止法	キシレン、トルエン
自動車リサイクル法	営業用乗用車、トラック

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありませんでした。

□代表者による全体の評価と見直し

継続して環境活動が進んでいる。

しかし、現場作業環境改善のため、空調機の増設を進めているが、その分電気使用量自体は増加。生産性改善で作業時間そのものの削減を目指して活動を継続。

環境配慮製品の販売数は大きく伸びたので、更なるアピールで、販売台数の増大を目指す。

□環境活動の紹介

- ・太陽光発電（100kW）を設置し、環境活動に努めています。
- ・工場周辺に緑化地帯を設け、環境に配慮しています。
- ・LED照明・省エネタイプ空調等を積極的に採用し、CO₂排出量削減に繋げています。
- ・廃棄物の分別を積極的に行い、リサイクルによるCO₂排出量削減を推進しています。
- ・梱包材の通箱化を推進しています。

太陽光発電用パネル設置写真（本社屋上）



※改訂履歴

2020/6/3 作成

2021/12/13 改訂・・・2ページ（5）製品出荷額に誤りがあったため、修正。
4ページ2019年度二酸化炭素総排出量に灯油分が抜けていたため、修正。